

I 種 苗 生 産

1 方 法

親魚は前年度より引続き飼育している18尾(年令,雌雄比不明,平均体重3.38 kg)である。これらの親魚から水槽内自然産卵によって得られた受精卵を直接飼育水槽に収容して飼育した。

仔魚飼育には屋根付50 m^2 水槽(飼育水量40 m^3)5面を使用した。

使用した餌料の投与期間,総投与量を図1に示した。マガキ幼生は前年度同様午前中に処理し,7~26個体/mlの密度で投与した。

S型ワムシは,クロレラ,パン酵母で一次培養し,クロレラ及び油脂酵母で約1晩二次培養して投与した。

投与量は当初20個体/mlで,徐々に量,回数を増し最終的には,30個体/ml,3回/日であった。アルテミアは450~3,400万個体/日を4~9日投与した。ハマフエフキ受精卵(冷凍したものも含む),配合飼料,ミンチは適宜投与した。

飼育水はふ化後15~19日目までは止水とした。その後昼間だけの流水とし,さらに終日流水として徐々に注水量を増し,最終的には2回転/日とした。また,底掃除は原則として1日1回行った。水温は午前9時から10時の間に測定した。

取り揚げはゴース布製網によってすくい取る方法で行った。取り揚げ尾数は,あらかじめ一定尾数を入れたバケツを指標としてこれと同数になるように同型バケツにすくい取って,バケツの杯数から算出した。

2 結果および考察

種苗生産結果,5区の水温,成長,生残率を表1,図2に示した。

合計144,400尾(2区を除く)を生産した。生産数は前年度に比べ飛躍的に伸びた。また3区の

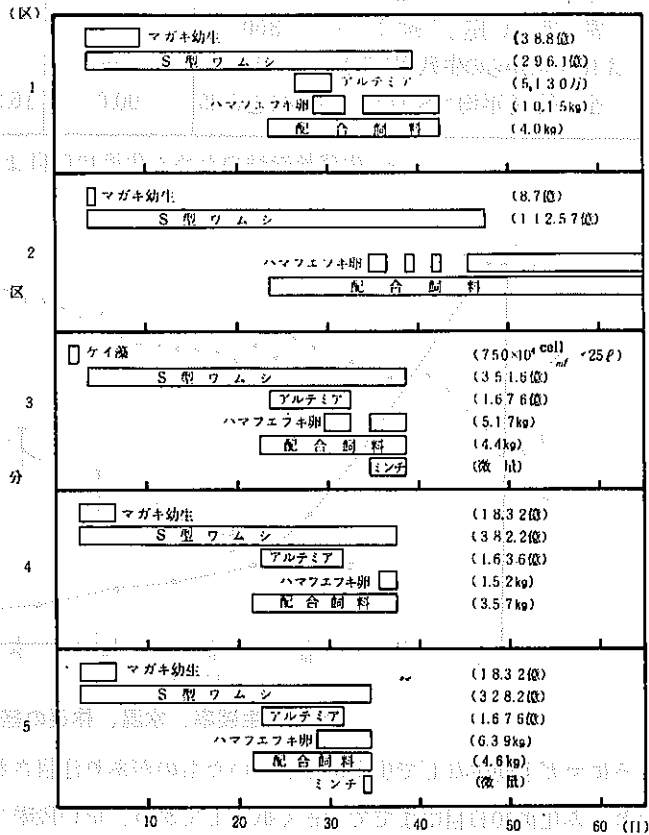


図1 餌料と投与期間(総投与量)